

地域の福祉力を高める仕事 ごいっしょに

友の会の ページ

「お元気でるか」改題No.370
編集 代々木健康友の会
☎03(5411)9589
FAX 03(3404)3421

会費納入のご案内
会費納入は、郵便振替が便利です。
会費は年間1,000円です。
口座番号 00190-7-71019
加入者名 代々木健康友の会
12月1日現在会員数約4221人

新春座談会

原宿の丘地域包括支援センター
・主任介護支援専門員

大内信介さん

ふれあいサポート渋谷所長
・介護支援専門員

坂村隆之さん

代々木健康友の会会長

布施 仁さん



写真、左から坂村さん、大内さん、布施さん

介護（ヘルパー）、居宅介護（ケアマネジャー）事業をしています。約80人の利用者さんがいます。千駄ヶ谷、神宮前地域の方が半数ぐらいです。この地域でより身近な事業所を目指しています。

声をかけ合い

見守りあう関係を

布施 高齢者が多いなかで、地域の状況をどう考えていますか。
大内 全体として、一人世帯、二人世帯が多くなっているなかで、高齢者の方においても同様の世帯が多くなっているのを実感しています。

大内 渋谷区の高齢化率は29%強のようですから、比較的高齢者の方の割合が少なく、若い世帯も多いのが特徴のようですね。これからも、お一人暮らし、お二人暮らしが多いことで、いろんな課題がでてくると思っています。

布施 2025年問題では、5人に1人が認知症を発症するという数字も発表されていますね。
大内 認知症は高齢化にともなって発症する病気なので、多くなってくると思うんですね。今のうちから認知症についての正しい知識だったりとか、みなさんが自分のこととして考えておいてい

ただくことが大切だと思います。地域包括支援センターも認知症のサポートや養成講座を開いてそういう機会をもっています。
布施 認知症って自分ではなかなか認識できない。家族の協力がどうやったら得られるだろうかと思っています。
坂村 本人よりも家族の方に理解をしていただく事がとても重要です。同居はしているけど、実態は仕事もあり同居同然の場合もあります。
大内 家族の方は働いていると親御さんと接する時間が短かったりとかします。実際、家族よりも周りの方々の方がよくわかっていられることもありま

か、早い段階で、気付き、初期の段階で関係機関が介入してうまく予防のところがつながっているケースもあります。
布施 地域の話人さんも気にかけてくれて「なんか変だよ」とスタッフに声がかかるんです。
坂村 特に神宮前地域の高齢者の皆さんは昔からの顔なじみ同士で見守り合いが自然に出来ていて、すごいなと思います。

大内 日ごろから生活の友の会さんとの信頼ですね。私たちが「友の会さんからの相談でお話を伺いに来ました」ということで、生活のこととか困っていることなどの話が膨らんで、どう支援するかが見える場合もあります。
布施 地域の方々がみなさんで支えようというんな方々がかかわっていますね。

大内 確かにご家族の介護だけではむずかしいので介護保険ができたという経緯もありますので、ご家族だけで解決できないところは地域で、みんなで自分のこととして、支え合っていくという考えは大切ですね。友の会の活動が生活圏域のなかで、いろんなサークル、健康教室のような講座やイベントもあっていてですね。身近なところ

にあったということが大切ですね。
地域には力がある
連携し、さらに前に

布施 私たちは地域の福祉力を高めるための役割を持つと考えると考えています。
大内 地域の力はあります。見守りサポート協力員さんや民生委員さん、町会のみなさんは、自分たちが住む地域をよくしたいという気持ちが強いと思うんです。その思いをつなげるのも仕事のひとつです。顔を知っていることは大事ですし、情報を共有することで、よりつながっていく、支え合っていく基盤になっていくと思います。
坂村 地域に出ていると色々なことに気づくことがあると思います。そのような時に、相談が推奨するPHH・健康増進活動拠点病院として加盟しています。病院の職員や地域の人たちといっしょに健康習慣づくり、健康チャレンジをすることも大きな課題です。最後に今後の抱負などお聞かせください。
大内 地域包括支援センターとして、お歳を重ねても住み慣れた地域で住み続けたいと思って相談に来られる方はステップを踏んでいきたいと思っています。その方々の思い

か、早い段階で、気付き、初期の段階で関係機関が介入してうまく予防のところがつながっているケースもあります。
布施 地域の話人さんも気にかけてくれて「なんか変だよ」とスタッフに声がかかるんです。
坂村 特に神宮前地域の高齢者の皆さんは昔からの顔なじみ同士で見守り合いが自然に出来ていて、すごいなと思います。
大内 日ごろから生活の友の会さんとの信頼ですね。私たちが「友の会さんからの相談でお話を伺いに来ました」ということで、生活のこととか困っていることなどの話が膨らんで、どう支援するかが見える場合もあります。
布施 地域の方々がみなさんで支えようというんな方々がかかわっていますね。

大内 確かにご家族の介護だけではむずかしいので介護保険ができたという経緯もありますので、ご家族だけで解決できないところは地域で、みんなで自分のこととして、支え合っていくという考えは大切ですね。友の会の活動が生活圏域のなかで、いろんなサークル、健康教室のような講座やイベントもあっていてですね。身近なところ

にあったということが大切ですね。
地域には力がある
連携し、さらに前に

布施 私たちは地域の福祉力を高めるための役割を持つと考えると考えています。
大内 地域の力はあります。見守りサポート協力員さんや民生委員さん、町会のみなさんは、自分たちが住む地域をよくしたいという気持ちが強いと思うんです。その思いをつなげるのも仕事のひとつです。顔を知っていることは大事ですし、情報を共有することで、よりつながっていく、支え合っていく基盤になっていくと思います。
坂村 地域に出ていると色々なことに気づくことがあると思います。そのような時に、相談が推奨するPHH・健康増進活動拠点病院として加盟しています。病院の職員や地域の人たちといっしょに健康習慣づくり、健康チャレンジをすることも大きな課題です。最後に今後の抱負などお聞かせください。
大内 地域包括支援センターとして、お歳を重ねても住み慣れた地域で住み続けたいと思って相談に来られる方はステップを踏んでいきたいと思っています。その方々の思い

を真摯に受け止めて丁寧に相談を受けていきたいですね。なにか、困ったりと心配だったりとか、どうしたらいいだろうか、どうしたらいいだろうかと思った時に地域包括支援センターを思い浮かべていただけるようなセンターになっていきたいと思っています。
坂村 地域とのつながり、連携を一層強めたいと思っています。事業所のスタッフみんなが地域のみなさんに顔を知っていただけるようになりたいですね。困ったとき相談できる場所としてみなさんに認知されるように頑張りたいです。現在この介護事業所も働く職員が集まらないことが深刻な問題です。事業所を存続するうえでも、職員を増やせるような取り組みもすすめたいと思っています。
布施 昨年、特に感じたことは、包括さんと坂村さんの苦難に寄り添う姿勢でした。病院の看護師長さんなどの献身な対応に励まされて、頑張ってきた一年でもありました。「地域の福祉力を高める」ために何ができるか、さらに前にすすめていこうと思っています。ありがとうございました。



